

氏名	森村 修 (教授、准教授、専任講師)
こんな研究をしています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代哲学（現象学・現代フランス哲学）：おもにフッサール現象学ならびにフーコー、ドゥルーズ、デリダを中心とした現代フランス哲学。</li> <li>・現代倫理学：「ケアの倫理」を中心とした応用倫理学</li> <li>・近代日本哲学：いわゆる「京都学派」を中心とした日本哲学</li> <li>・美学・芸術哲学：現代アートを中心としたアート／デザインの哲学・美学</li> </ul>
こんな成果を挙げています	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 森村修『ケアの倫理』（大修館書店、2000年）</li> <li>(2) 森村修『ケアの形而上学』（大修館書店、2020年）</li> <li>(3) 森村修「「社会政治的トラウマの」の倫理」（牧野英二他編『哲学の変換と知の越境』所収、法政大学出版局、2019年）</li> <li>(4) 森村修「アマルティア・セン—自由と正義のアイデア」（榎木玲子/法政大学国際文化学部編『〈境界〉を生きる思想家たち』所収、法政大学出版局、2016年）</li> <li>(5) 森村修「西田幾多郎の「グラマトロジー」—〈書〉の美学=感性学〔エステティクス〕の可能性」（東北大学哲学研究室編『思索』所収、2021年）</li> </ol>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代哲学（現象学・ポスト構造主義など）／現代倫理学（応用倫理学も含む）</li> <li>・ 日本哲学</li> <li>・ 芸術哲学・美学（アートの哲学思想など）</li> <li>・ 社会哲学・政治哲学・経済哲学</li> <li>・ 医療／看護／ケアの倫理学</li> <li>・ 最近では、技術哲学（Philosophy of Technology）や、AIの倫理学／政治哲学にも関心がある</li> </ul>
こんな授業を行なっています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2024年度は、サバティカル（国内研究）のため、学部・大学院の授業は休講。</li> <li>・ 2025年度は、大学院必修科目「国際文化研究 A」を担当。また、大学院科目「多文化情報空間論 I A」（春学期）では、日本の現代思想家・哲学者の柄谷行人『日本近代文学の起源』（1980）と浅田彰『構造と力』（1982）を輪読。同科目「I B」で、ジュディス・バトラの『ジェンダー・トラブル』（1990）を取り上げた。</li> <li>・ 2026年度も、「国際文化研究 A」を担当する。「多文化情報空間論」では、現象学の祖フッサールの『イデーニ II』を精読し、現象学的哲学を学ぶ予定。</li> </ul>
学会や社会でこんな活動をしています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2023年度で、50周年を迎える「比較思想学会」の理事として活動し、日本の宗教・哲学思想と西洋哲学・思想との比較哲学研究者の育成に関わっている。</li> <li>・ 様々な障がいを抱える人たちとその家族の方々の活動を、アート／デザイン活動に関係づけることを中心に活動している「アートミーツケア学会」に属し、障がいを持つ人たちが過ごしやすい社会を構築するために、哲学・美学・思想的な観点から活動をしている。</li> </ul>
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	特に思いつきません。